『伊福部先生ありがとうございました』

田村拓男

昨年（2006年2月8日）、日本作曲界の重鎮、伊福部昭氏が享年91歳で永眠されました。
本年3月4日には、伊福部昭音楽祭実行委員会（代表：今井重幸）主催によって一年祭（神道上の祭り）が開かれました。

氏の作品群の中には、洋楽のみならず邦楽器のための素晴らしい作品もたくさんあります。私たちのために作品を書き、親しくご指導くださったことに感謝をし、日本音楽集団でも師に捧げる音楽祭を開くことにしました。唯一の邦楽器合奏曲、郢曲「鬢多々良」（1972年文化庁委嘱・集団初演）は、現代邦楽界にとって大きな財産となりました。この曲では第1箏が大きな役目をしますが、今回は初演に係わった野坂惠子氏を招いての再演です。野坂氏はその後も伊福部昭氏の指導を受け、二十五絃箏のための作品を委嘱して、数曲の作品が残されたことはとても貴重なことでした。

一昨年5月の定期では「交響譚詩」日本音楽集団版編曲にあたり、秋岸寛久が師のご自宅を訪ね、直接ご指導を受けました。そして初演の際には、本日と同じ客席で熱い眼差しで聴いておられた姿が忘れられません。ここに師の邦楽器作品を特集し、伊福部昭音楽祭として捧げたいと思います。

日本音楽集団版交響譚詩

戦時中の作品。原作は持ち替え二管編成のオーケストラで書かれました。当時、日本ビクターからSP盤が発売されて以来、種々な編曲が現れ、吹奏楽、マンドリン、オーケストラ、そして2001年には野坂惠子・小宮瑞代（親子）による二十五絃箏の二重奏版が誕生しています。

私たちもかねてより、伊福部昭オーケストラ名曲が邦楽器の合奏で出来ないものかと思案していました。一昨年5月の定期「名曲選シリーズ」を前にして、勇気をもってお伺いしたところ快諾を得ることができ、秋岸寛久編曲による日本音楽集団版が誕生することになりました。笛、笙、篳篥、尺八、胡弓、三味線（細棹・太棹）、琵琶、二十絃箏、十七絃、打楽器など、総勢30名による邦楽器たちの大合奏「交響譚詩」です。今回が再演となります。

二十五絃箏曲〈琵琶行〉—白居易ノ興ニ效フ

この曲は、野坂惠子氏の委嘱により1999年に誕生、同年11月13日、第17回野坂惠子リサイタルで初演されました。伊福部昭氏の近作の仕事の中で新作として最もスケールが大きく、演奏時間約20分という曲。伊福部氏85歳の時の作品。

野坂惠子氏によって1969年に開発された二十絃箏は、さらに彼女の理想を実現する形として1991年、二十五絃箏が誕生し、その8年後の「琵琶行」の発表へとつながっています。

伊福部氏は、中国唐の時代の詩や史記、そして1972年湖南省の古墳から発掘された紀元前の婦人の副葬品のなかに絃を張ったままの二十五絃が現れた事実などから、この楽器が決して特殊なものでなく、むしろ古代から王侯、貴族の間で高雅な響きを持った楽器としてあったことを述べています。

SF交響ファンタジー邦楽器版

「伊福部昭」という名前を聞いて真っ先に「ゴジラ」を思い浮かべる方も多いことと思います。伊福部先生は映画音楽の分野でも、特に東宝の特撮映画のためにたくさんの魅力的な音楽を残されました。そしてそれらをご自身の手によってコンサート用に「SF交響ファンタジー」という作品に編曲されています。今回、その中で特に演奏される機会の多い第一番を邦楽器版にアレンジしてみました。重厚なサウンドはオーケストラにかなうべくもありませんが、軽妙な音楽の部分などは違和感がないばかりでなく、オリジナルとは別の魅力を引き出すことができるのではないかと思っています。この作品には、「ゴジラ」「宇宙大戦争」「三大怪獣地球最大の決戦」「怪獣総進撃」などの音楽が含まれています。芸術作品と全く変わらない充実度で書かれていますので、特撮映画ファンではない方にもお楽しみいただけることと思います。（秋岸）

郢曲「鬢多々良」

1972年、文化庁の委嘱により作曲され、1973年秋の芸術祭主催公演「日本音楽集団演奏会」で初演されました。伊福部氏がはじめて手がけた邦楽器のための作品です。

「郢曲」（えいきょく）とは、平安中期にわが国に興った音楽の一形態ですが、様式としては、宮廷社寺楽と庶民の俗楽との中間に位していました。したがって旋法などもわが国と唐・天竺などとの混淆にあったと考えられています。「鬢多々良」（びんたたら）とは、詠唱を伴ったかなりくつろいだ舞い楽で、あまり厳格に定まった振りはなかったらしく、各自が自由に舞い、やがて乱舞に至るのが常であったとされています。

この曲を演奏する度に感じることは、演奏者も聴き手側もいつのまにか興奮してくるということです。これぞ名曲であることの証でしょうか。2001年の「プラハの春音楽祭」でも演奏されました。

野坂惠子プロフィール

1963年東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業、同修士課程修了。1965年第1回リサイタル。同年、「日本音楽集団」に参加。以降17年間メンバーとして活動。1969年二十絃箏を開発、文化庁芸術祭奨励賞。1971年文化庁芸術祭優秀賞。1975年メニューセン・フェスティバルで招待演奏、欧米にて22回のリサイタル。1991年二十五絃箏を発表。1994年より伊福部昭氏に師事。1996年より8年間東京芸術大学非常勤講師。2003年北米リサイタルツアー、二代野坂惠壽襲名。2005年ドイツリサイタルツアー。現在、桐朋学園芸術短期大学特任教授、（社）日本三曲協会理事、生田流箏曲松の実会主宰。

定期演奏会《モニター・ボランティア》募集

日本音楽集団では定期演奏会にご来場頂き、お客様の視点からの印象や感想などをレポートしていただく《モニター・ボランティア》を募集いたします。ご意見は音楽集団の定期演奏会の運営に役立たせて頂く他、「モニター・レポート」として音楽集団のHP上で公開することもあります。

- 応募方法／本団事務局宛に、応募用紙と共に作文を送付して頂きます。
- 第6期締切／平成19年4月27日（金）必着

ご希望の方は日本音楽集団事務局へお問合せ下さい。詳細な応募要項をお送りします。

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。

（年間一口、個人会員10,000円、法人会員30,000円）

ニッポニア・ファイブ募集中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになる他、数々の特典があります。

- Aファイブ＝定価5,000円のA指定席を5回連続で15,000円
- Bファイブ＝定価4,000円のB指定席を5回連続で12,000円

以上詳細は日本音楽集団事務所までお問い合わせ下さい。

都営地下鉄■太江戸線「勝どき」駅A2a出口 徒歩8分
都営バス■「都03」系（四谷駅→日比谷→数寄屋橋→銀座四丁目→晴海埠頭）および「都05」系（東京駅丸の内南口→有楽町駅前→数寄屋橋→銀座四丁目→晴海埠頭）で、晴海トリトンスクエア前下車 徒歩4分
■「東12」系（東京八重洲口→リバーシティ21→月島駅前→晴海埠頭）および「錦13甲」系（錦糸町駅前→住吉駅前→豊洲駅前→晴海埠頭）で、晴海区民館前あるいは晴海三丁目下車 徒歩6分
車■首都高速都心環状線「銀座」「新富町」出口から約10分。機械式有料駐車場（440台収容。営業時間7:00～23:30）

第一生命ホール
〒104-0053 東京都中央区晴海1丁目8番地9号
Tel 03-3532-3535 Fax 03-3532-2723

日本音楽集団メンバー

（楽器別・五十音順）

笛：越智隼人、竹井誠、西川浩平
篠笛：尺八：加藤秀和、飯塚明夫
篠笛：篳篥：藤原鄉、原崎重康、西原祐二
篳篥：加藤浩之、川口尚之
笙：三橋貴風、宮田耕八朗、元永拓郎、渡辺淳
琵琶：久保田晶子、首藤久美子、田原順子、細川華鶴子
琵琶：作曲：秋岸寛久、尾形敬幸、長沢勝俊、福嶋頼秀
琵琶：楽器・舞台：尾崎太一、黒坂昇、島村聖春、高橋明邦、仙堂新太郎、多田恵子、望月太喜之丞、盧慶順
琵琶：打楽器：臼杵美智代
琴：大島茉穂子、久東寿子、熊沢栄利子、桜井智永子、佐藤里美、島崎春美、城ケ崎美保、高橋はるな、早田智法子、彦坂恵美子、久本桂子、前川美保子、丸岡映知美代子、松下礼子、宮三宅紀美子、山田明子、山田由紀子、吉村七重子、渡辺正子
琴：山田恵子、工藤哲子、坂口美春、田中悠美子、三味線：在原富士江、荊家七三子、三味線：多々良春保里
胡弓：睦地啓司
（休団中は未掲載）
2007年1月現在

特定非営利活動法人日本音楽集団
〒151-0073東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
電話 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033
http://www.promusica.or.jp/
E-mail office@promusica.or.jp